

子ども談話

2024年12月26日発行

十勝地方にも雪の便りが届き、いよいよ本格的な寒さが訪れる季節となりました。

今号は、主に2学期に行われた研修の報告や本校の取り組み等を掲載いたします。日々の実践のヒントとして、本通信の情報をご活用いただけると幸いです。



1 自立活動研修報告

11月20日(水)に本校全職員を対象に、「発達障害と感覚」をテーマに自立活動研修を行いました。

あの子は「なぜ」このような行動をとるのだろうか…?子どもと接していると一度は思ったことがあるのではないのでしょうか。こだわり?好きだから?なんとなく?落ち着くから?…本当の理由は本人にはわかりませんが、その行動の背景には様々な要因があると思います。

その要因を考える一つの視点として、「感覚」にフォーカスを当てて、「触覚」「固有覚」「平衡感覚」等についての講義と、普段『無意識』に使っている感覚を『意識』出来るような実演を交えて職員同士で学び合いました。

参加した職員からは、「児童生徒の行動を理解するヒントや手がかりがたくさんありました。」「学級でも『手先が不器用だな』や『気持ちが落ち着かないんだな』とすぐに理由をつけていましたが、視点を変えて子どもたちを見てみようと思います!!」といったような声が聞かれ、今後の教育活動や支援の知見を広げるきっかけになったのではないかと思います。

今後も子どもたち一人一人に効果的な支援を行っていけるように、校内のニーズに応じた自立活動の研修を企画していく予定です。

研修会の様子



2 とかねっと～夏季研修会報告～



7月29日(月)に帯広盲学校を会場に、令和6年度とかねっと夏季研修会が開催されました。

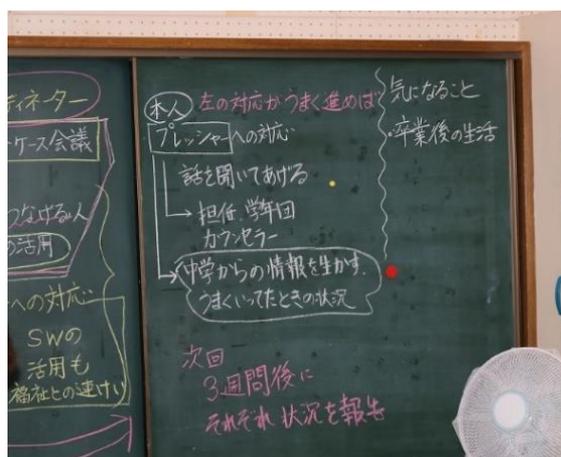
昨年度に引き続き対面開催となり、特別支援教育に関わる方々が集まり顔を合わせての研修会を実施することができました。幼稚園・保育園・こども園など幼児期に関わる先生方から高等学校の先生まで幅広い校種の先生方、約80名にご参加いただきました。

今年度は「コーディネーターの役割とは?～他の学校の取組を見てみよう!～」というテーマで、午前と午後の部で開催しました。始めに十勝管内小中学校の事例紹介、次に特別支援学校コーディネーターより「特別支援教育コーディネーターの役割」「ケース会議の進め方について」の説明を行いました。

午後は、各グループに分かれ、実際の事例をもとにケース会議の進め方について実践演習を行いました。その中で、コーディネーターとして必要な役割や取り組みについて研修を深めることができました。実践演習の最後に、いくつかのグループより話し合った内容の発表を行い、全体で共有し深めることができました。

参加者からいただいた「分科会で良かったことについて」のアンケートでは、「実際にケース会議の演習を行うことで、会議の進め方や話し合う内容・要点が整理できてとても参考になった。」「午前中の事例紹介で他校の取り組みを知ることができて、とても良い研修だった。」「校種の違う先生方(特に支援学校の先生方)と一緒に研修の機会は小中の教員からすると意外とないものなので、参加者同士も貴重な交流ができて良かった。」「ケース会議とコーディネーターの役割について知ることができてとても良かった」など多くの感想をいただくことができました。

今後も、研修会アンケートやとかねっと「コラム」を本校のホームページに掲載していきますので、是非ご一読ください。



3 気になる子どもの支援



文字を書くときや塗り絵のとき、筆圧が強すぎて困る!というお子さんはいませんか?

間違えても消しゴムで消すのが大変だったり、鉛筆の芯が折れてしまったり・・・、そしてイライラしてさらに力を入れて書いてしまうという悪いループになっていませんか?

なかなか手先の力を抜けないとき、どのように伝えたら伝わるでしょうか?具体的に伝えたいけれどどんな言葉掛けがよいのか悩んでしまいます。「もっと力抜いて!」「リラックスして」などの言葉掛けでは具体的ではなく伝わりにくいです。でも「どこの力抜くの?」「リラックスってどんな風に?」となかなか具体的に伝えるの難しいですね。

そこで今回は同じ濃さで色を塗るという学習に取り組んでいる児童の紹介をしたいと思います。今回使う支援ツールは粘土です。粘土を丸めて手のひらに入れて潰さないように色を塗ります。粘土がきれいに丸いまま塗り絵を完成できたらミッションクリア!です。

小学部4-3グループ

①手のひらに収まる粘土を準備!



②持ち方の確認

③粘土が潰れないように色塗り開始



④優しく鉛筆を持っています!



⑤途中、粘土が潰れていないかチェックしています!



⑥優しく薄く塗れています。

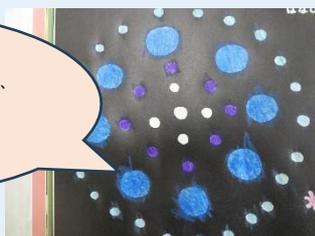


⑦姿勢もよく集中しています!



⑧塗り終わっても粘土の形は変わっていません!

粘土を使っていないと力が入り、塗り方も雑になっています。



粘土があると塗り方も丁寧です。

毎回、特別支援教育や障害者福祉にかかわるおすすめの本籍などをご紹介します。

「子どもの発達障害と環境調整」のコツがわかる本(著者 いるかどり)

本書のテーマは環境調整です。人的環境・物的環境・空間的環境を調整することで、子ども達の困り感は成功体験へつながっていきます。(本書前書きより抜粋)

子どもの事例を通して、「即効性のある環境調整の例」や「困り感を改善・克服するための学習方法」などが具体的に書かれてあり、学校現場ですぐにでも活用できそうな内容が豊富に掲載されています。ぜひ手に取って見ていただきたい、おすすめの1冊です。



(今号は伊藤、下津が担当しました)